

各種デバイスドライバーをWindows8.1の64ビット版にインストールする場合のご注意

各種デバイスドライバーをWindows8.1の64ビット版にインストールする場合、デバイスドライバー本体に署名がない場合、エラーが発生することがあります。つきましては、インストール時に下記のようなエラーが発生して、デバイスドライバーがインストールできない場合には、次の方法でデジタル署名のチェックを一時的に無効にする設定にしてインストールをお試しいただけますようお願い致します。

※本エラーはWindows7の64ビットでは基本的には発生しませんが、万一、本エラーが発生した場合には本書の手順でインストールをお願い致します。

■表示されるエラー

このデバイスに必要なドライバーのデジタル署名を検証できません。
ハードウェアまたはソフトウェアに最近加えられた変更により、正しく署名されていないファイルや破損したファイルがインストールされた可能性があります。また、出所の不明な悪意のあるソフトウェアであることも考えられます。(コード 52)



デバイスマネージャからインストールしようとするとう図のような問題が発生します。

■署名無効化の手順

- ① Windowsをテストモードで動作
- ② ドライバー署名の強制設定を無効化
- ③ Windows Smart Screenを無効化

① Windowsをテストモードにする

1.管理者権限にてコマンドプロンプトを実行します。

→「Windowsキー」を押しながら「X」キーを押します。「コマンドプロンプト (管理者)」をクリックします。



2.コマンドプロンプトに次のコマンドを入力して実行します。

※管理者権限で起動しないとエラーになります。

bcdedit /set TESTSIGNING ON

```
C:\> 管理者: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 6.3.9600]
(c) 2013 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Windows\system32>bcdedit /set TESTSIGNING ON
この操作を正しく終了しました。

C:\Windows\system32>
```

"管理者"と表示されていることを確認

"この操作を正しく完了しました"と表示されれば成功です。

※テストモードから通常モードに戻すには次のようにします。

```
bcdedit /set TESTSIGNING OFF
```

Windows7の場合には、ここまでで問題は解決します。これを実行後再度CD-ROMよりインストールをお願い致します。なお、Windows8.1をご使用で実行時に「要素データを設定中にエラーが発生しました。この値はセキュアブートポリシーによって保護されているため、変更または削除できません」と表示された場合には、Windowsのセキュアブートポリシーの設定を下記の手順で変更する必要があります。

①-2、Windowsのセキュアブートポリシーを無効にする

[チャームバー]→[設定]→[PC設定の変更]をクリックします。

[保守と管理]→[回復]をクリックし"PCの起動をカスタマイズする"の所にある[今すぐ再起動する]をクリックします。

メニューが表示されたら[トラブルシューティング]→[詳細オプション]→[UEFIファームウェアの設定]→[再起動]をクリックし再起動します。

再起動したら[詳細オプション]をクリックし[UEFIファームウェアの設定]をクリックします。

※ソニー製のVAIOなどメーカー製パソコンではメーカー独自のメニューが表示される場合があります。その場合には"BIOSを起動"など、パソコンのローレベル設定を行える項目を選択してください。

コマンドプロンプトのような画面が表示されたら[BIOS Setup]→[Secure BootをDisabled]に設定してください。設定を変更したらWindows8.1を起動してください。これでセキュアブートポリシーを無効にしましたので、上の手順にある次のコマンドを実行してください。

```
bcdedit /set TESTSIGNING ON
```

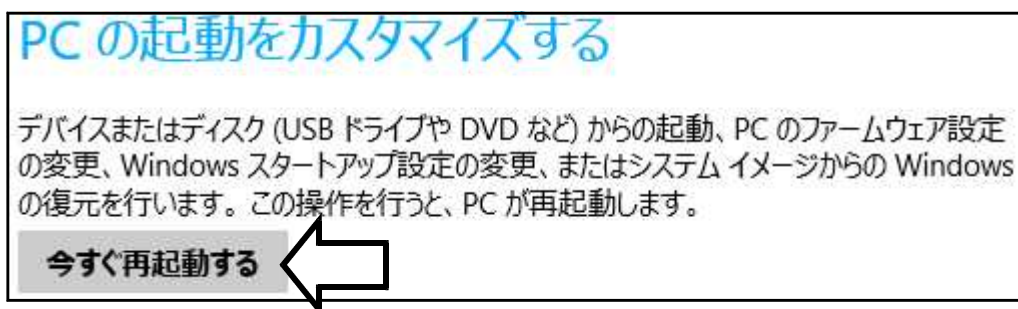
② ドライバー署名の強制設定を無効化

次の手順でドライバー署名を無効化します。

1.[チャームバー]→[設定]→[PC設定の変更]をクリックします。



2.[保守と管理]→[回復]をクリックし"PCの起動をカスタマイズする"の所にある[今すぐ再起動する]をクリックします。



3.続いて表示された画面で、[トラブルシューティング]→[詳細オプション]→[スタートアップ設定]をタップします。右下の「再起動」をクリックしてPCを再起動させます。

4.再起動すると"スタートアップ設定"という青バックのメニューが表示されます。ここで"7)ドライバー署名の強制を無効にする"を選択しますので、キーボードの「7」キーを1回押してください。

スタートアップ設定

オプションを選択するには、番号を押してください。

番号には、数字キーまたはファンクションキーのF1からF9を使用します。

- 1) デバッグを有効にする
- 2) ブートログを有効にする
- 3) 低解像度ビデオを有効にする
- 4) セーフモードを有効にする
- 5) セーフモードとネットワークを有効にする
- 6) セーフモードとコマンドプロンプトを有効にする
- 7) ドライバー署名の強制を無効にする**
- 8) 起動時マルウェア対策を無効にする
- 9) 障害発生後の自動再起動を無効にする

5.Windowsが再起動します。デスクトップの右下を見ると「テストモード」と表示されていることを確認します。これで、署名なしのドライバーもインストール出来るようになります。

③ Windows Smart Screenを無効化（必要に応じて行います）

Windows SmartScreenとは、Internet Explorerに搭載されているSmartScreenフィルター機能が、Windowsに統合されたものです。ソフトウェアを実行しようとする時、安全性を確認してPCを保護する機能です。悪意のあるソフトウェアのインストールを防ぐためのものです。

場合によってはこの機能がデバイスドライバーのインストールを妨害することで、インストールがうまくいかない場合があります。よってここではこの機能を無効にします。

1.[チャームバー]→[コントロールパネル]→[システムとセキュリティ]→[アクションセンター]をタップして開きます。

2.画面左側にある[Windows Smart Screen 設定の変更]をタップし、一番下の項目「何もしない（Windows SmartScreenを無効にする）」にチェックを入れて"OK"ボタンを押してください。

これですべての設定は完了しました。この設定でドライバーは正しくインストールできます。

なお、デバイスドライバーをインストールする時、インストーラーが付属する場合には必ず右クリックして「管理者として実行」をクリックし、管理者権限でインストールする必要があります。

実行時に「要素データを設定中にエラーが発生しました。この値はセキュアブートポリシーによって保護されているため、変更または削除できません」と表示された場合には、Windowsのセキュアブートポリシーの設定を下記の手順で変更する必要があります。

1.[チャームバー]→[設定]→[PC設定の変更]をクリックします。

2.[保守と管理]→[回復]をクリックし"PCの起動をカスタマイズする"の所にある[今すぐ再起動する]をクリックします。

3.メニューが表示されたら[トラブルシューティング]→[詳細オプション]→[UEFIファームウェアの設定]→[再起動]をクリックし再起動します。

4.再起動したら[詳細オプション]をクリックし[UEFIファームウェアの設定]をクリックします。

5.コマンドプロンプトのような画面が表示されたら[BIOS Setup]→[Secure BootをDisabled]に設定してください。

※なおこの画面表示はパソコンのBIOSで設定する項目となりますのでメーカーによっては表示が異なる場合があります。その場合には"Secure Boot"という文字列を見つけて、設定を"Disabled"又は"無効"などに設定してください。